

22) 切除不能Ⅲ期非小細胞肺癌に対する抗腫瘍効果の個人差を考慮に入れた放射線・化学療法の検討

市川 喜一・上原 裕子
森山 寛史・横山 晶 (新潟県立がんセンター内科)
栗田 雄三
笹本 龍太・斎藤 真理 (同 放射線科)

局所進行非小細胞肺癌症例に対して、放射線・化学療法が標準的治療となりつつあるが、化学療法に対する感受性には個人差が見られる。導入化学療法に抵抗性である場合に化学療法を短期で終了し、放射線療法へ移行することは、より早期に有効な治療を可能な限り集中し、全体としての完遂率を向上させるという意味で、延命に寄与すると考えられる。我々は、切除不能Ⅲ期非小細胞肺癌症例に対し、抗腫瘍効果の個人差を考慮に入れた導入化学療法後に CBDCA 連日低用量同時併用放射線療法を行った。現在まで12例登録され、年齢は49~70 (中央値67) 歳、病期はⅢA/ⅢB が各々 8/4 例である。導入療法のための奏効率は67%、Overall の奏効率は100%と良好な結果が得られている。主要な毒性は白血球・血小板減少であったが、耐容可能であった。放射線治療後の食道炎、肺毒性とも JCOG 規準で Grade 3 以上のものは見られていない。

23) 縦隔原発胚細胞腫の治療経験

吉谷 克雄・大和 靖
相馬 孝博・土田 正則
青木 正・渡辺 健寛 (新潟大学医学部)
橋本 毅久・林 純一 (第二外科)

1989年から1996年までの間に当科で経験した縦隔原発胚細胞腫は4例あり、全例非セミノーマ型腫瘍であった。術前生検で卵黄嚢腫と診断された2例は CDDP を主体とした化療で腫瘍の縮小と腫瘍マーカーの減少が得られた後、切除手術が可能となった。術前生検で悪性リンパ腫が疑われた1例は、CHOP 療法および照射療法に反応せず手術を施行した。切除後、混合型と判明して PVB 療法を追加し、術後7年無再発生存中である。術前生検で小細胞癌が疑われ CDDP を主体とした化療が行われた1例は、腫瘍の縮小と腫瘍マーカーの正常化が得られた後切除可能となり、術後追加化療を行い、4年無再発生存中である。縦隔原発非セミノーマ型胚細胞腫は組織診断を得た後に、CDDP 主体の化療を先行させ、化療の最大効果時に、adjuvant surgery としての摘出手術を行い、摘出腫瘍内に悪性組織が残存している場合は、化療を追加することにより予後向上が期待

できる。

24) 気管分岐部癌 (表層型) に全麻下レーザー焼灼を行い、消失したと考えられた1例

相馬 孝博・平原 浩幸 (長岡中央総合病院 胸部外科)
岩島 明・鳥田 正久 (同 呼吸器内科)
遠藤 禎郎 (同 放射線科)
塚田 博・佐藤 敏輝 (同 放射線科)
荒井 義彦 (栃尾郷病院内科)

症例は72歳男性で、喫煙指数1710であり、1997年6月、市の喀痰検診にて class V の指摘を受けた。栃尾郷病院内科受診し、胸部 CT で異常は発見されず、気管支鏡で気管分岐部腫瘍であることが確認され、生検にて扁平上皮癌と判明した。表層型で、病変部が小さく、気管支鏡的に辺縁明瞭であったため、当科にてレーザー焼灼を試みた。1997年7月24日、左片肺挿管による全身麻酔下で、新型2チャンネル気管支鏡を用い、病変部を焼灼した。(平均 40 W/s, 総量 7843 J) 術後1週間の気管支鏡では、壊死組織のみしか採取されず、その後1ヶ月ごとの気管支鏡では、病変部の癒着の進行が観察され、術後6ヶ月の生検でも悪性細胞は検出されなかった。今後も2-3ヶ月ごとの追跡を行う予定である。小範囲の表層型扁平上皮癌に対しては、本法は治療法の選択肢となりうる可能性がある。

25) 気道閉塞腫瘍に対する外科治療

滝沢 恒世・寺島 雅範 (県立がんセンター)
小池 輝明・渡辺 健寛 (新潟病院 呼吸器外科)

3例の治療経験を報告する。症例1. 38歳、男性。平成7年9月27日発熱。10月15日気管支鏡検査で左主気管支を閉塞する腫瘍が存在。11月9日気管分岐部切除再建手術施行。術後病理検査で腫瘍は Pleomorphic adenoma と診断。平成8年4月18日左主気管支吻合部狭窄に対しデューモンステント留置。症例2. 86歳、女性。平成8年2月より血痰。11月13日気管支鏡検査で右主気管支を閉塞する腫瘍が存在。マイクロ波焼灼3回施行も縮小無し。平成9年1月20日胸腔鏡手術で右主気管支膜様部切開、腫瘍摘出。術後病理検査で腫瘍は Pseudotumor と診断。症例3. 67歳、男性。平成2年5月24日腎癌手術。平成6年11月24日多発性肺転移。平成9年9月息切れ。10月23日気管支鏡検査で右上葉気管支から突出し、主気管支を閉塞する腫瘍が存在。レーザー焼灼後デューモンステント留置。低悪性、良性的気道閉塞腫